

社会保険労務士稻門会会報

都の西北

第7号

平成18年5月31日 発行：社会保険労務士稻門会

発行人：藤原 久嗣

※題字は小林昌尚相談役の筆によるものです。

「第5回講演と懇親の夕べ」

平成17年11月26日（土）

平成17年11月26日（土）午後4時より、「神楽坂エミール」において、会員37名の参加の下「第5回講演と懇親の夕べ」が開催されました。平成13年7月に社会保険労務士稻門会が設立され、その年に第1回の「講演と懇親の夕べ」を開催してから、今年ではや5回目となりました。今回は、テーマの関連からも他の稻門会の校友が講演会に参加し、真剣な勉強の場となりました。

第1部は澤井賢治幹事（東京会）の司会で、母校の田山輝明副総長を講師にお迎えし、「成年後見制度とその活用について」という題でご講演いただきました。

今後その需要の増大が見込まれ、かつ社会保険労務士としてもその知識の必要性が高まり、関与の可能性を模索している「成年後見制度」について、資料を使って、たいへん分かりやすく説明していただきました。

今年は講演の内容が成年後見制度ということからか関心も高く、税理士稻門会・司法書士稻門会・行政書士稻門会の諸先生方にもご参加いただき、盛況を博しました。

堀口利副会長（東京会）の閉会の辞により終了しました。



第2部は、澤井賢治幹事(神奈川会)の司会で始まりました。藤原久嗣会長(東京会)の開会挨拶に続いて税理士稻門会高橋勝彦副会長のご挨拶があり、坂井俊一顧問(東京会)の乾杯により会員相互の懇親の会が始まりました。

その後、他士業稻門会、他大学の社会保険労務士の会(駿台会、白門会、桜門会)の方々のご挨拶、特定社会保険労務士に関する情報についての小松茂樹顧問(連合会副会長)のお話、校友会事務局のご挨拶や、新規加入者(3名)の自己紹介等があり、和やかな懇談がもたれました。

しばらくの歓談の後、こういう会にはやっぱりbingoゲーム。はずれなしのゲーム大会を開催。若山薦幹事(神奈川会)の進行のもと、新企画のゲームも行われるなど、参加者一同大いに懇親を深めました。

そして盛り上がりも最高潮に達したところで、蒲生秀晴副幹事長(東京会)の音頭により恒例の「都の西北」を全員で合唱しました。

最後に村上芳明副会長(東京会)が閉会の辞を述べ、三本締めで無事会を終了しました。

「早稲田学生新聞」2005年12月15日号に掲載されました！

**社会保険労務士稻門会
平成17年 講演と懇親の夕べ**



講演と懇親の夕べ

社会保険労務士稻門会は
十一月二十六日 今回で第
五回となる「講演と懇親の
夕べ」を神楽坂エミールで
開催し、三千余名の会員ら
が集まつた。

第一回の講演会では、本
学副総長の田山輝明氏を講
師に迎え、「成年後見制度
の活用」をテーマに講演が
行われた。この制度は、本
学副総長は現在、社会全体
から現状を解説した。
的要因と国際的要因の両面
について山副総長は、国内
見入等が行う仕組みとして
十分な人の財産管理や身上
監護を、代理権や同意権・
取引権が付与された成年後
見入等が行う仕組みとして
五年前にスタート。同制度
が持たれ、会員らは交流の
場を楽しんだ。

田山副総長講演 「成年後見制度とその活 用について」

1. 社会福祉の基本制度の 変更

- (1)社会福祉と行政
- (2)契約によるサービス給付
- (3)契約締結のための援助

2. 具体例の検討

3. 契約と拘束力

- (1)契約は何故拘束力があるか

- (2)真意を欠いている契約
- (3)消費者契約法による無効

- (4)真意が反映されていない契約

- (5)消費者契約法による取消

- (6)クーリング・オフによる契約の解消

- (7)高齢者に特別な事情
- (8)その他の意思能力の不十分な者

4. 権利擁護のための多様なシステム

早稲田・ミニ知識

●「早稲田大学」名称の由来

早稲田大学は、1882(明治 15)年 10月 21 日に創立した「東京専門学校」を前身とします。当初は、創立者・大隈重信侯の別邸が東京府豊島郡早稲田村に、また、校舎が同郷下戸塚村にあったことから、関係者が「早稲田学校」「戸塚学校」と言っていましたが、最終的には、「東京専門学校」と名付けられました。この名付けの背景には、東京帝国大学に匹敵する高等教育機関にしたいとの意図がうかがえます。

しかし、一般的には、「大隈学校」と呼ばれ、反政府の拠点と目されました。1892(明治 25)年頃には、専門学校の別名として、「早稲田学校」と呼ばれるようになりました。

以後、1902(明治 35)年、専門学校から大学への昇格を機に、敢えて東大が使う首都「東京」の呼称を捨て、大隈によって代表された早稲田の地名をとり、「早稲田大学」と改称しました。ここでも、東京大学に比肩たらんとする意気込みがうかがえます。

●校旗の始まり

校旗の制定は、教旨・式服・式帽とともに、創立 30 周年にあたる 1913(大正 2)年のことで、この記念式典で初めて披露されました。これは、当時、高田早苗学長、秘書の橋静二の発案により、今和次郎がデザインしたものでした。式典当日、この校旗を先頭にガウンを着用した教職員が入場し、会場内は総員総起立総歓呼！であったとのことです。

ところで、校章の稻穂の数が左右とも 19 個であるいわれはご存知でしょうか？一説によると、創立年 1882 年は 19 世紀であり、1882 年の数字を足し算すると 19 になります。眞実は不明ですが、それ以外に 19 という半端な数字にした理由が思いつきません。

●世界一の角帽

制服制帽が制定されたのは 1900(明治 33)年 7 月 11 日。最初の学帽は現在の式帽と似て自庇(額の上に突き出た部分)がなく、黒い絹の房が垂れ、"ザブトン"ともいわれました。形は英國ケンブリッヂ大学に模し、これにモール型の字を徽章としたものです。しかし、内側に芯を入れたこの角帽はまもなく丸帽に改められます。

1904(明治 37)年頃、大隈重信侯の命により洋服店主、高島弥七郎が現在の角帽(ピンと四角に張りつつ芯がない)を考案。創立 20 年を迎えた頃、「俺は早稲田の学生だぞ」と名乗る偽学生が出没したため、大隈老侯は、世界唯一の帽子を作ってどんな田舎でも「あればワセダの学生である」とわかるようにすることが宿題でした。金モールの徽章とともに商品登録を受けた角帽の裏には姓名、学科名、校印を捺して「早稲田の学生に相違無之候也」と添え、身分証明ともなりました。

◆連絡方法のアンケート結果について

昨年 9 月、会員の皆様には、「連絡方法等の希望調査ご協力のお願い」として、会からの連絡をメールにしてよいか、メーリングリストへの登録を希望するかどうか、について皆様のご意見を聞かせていただきました。ご協力ありがとうございました。

150 名強の会員のうち 40 名の会員の方々から返信をいただきましたが、そのうちメールだけでよい、という方は 33 名でした。ところが 33 名の内訳は大多数が幹事で、幹事以外への連絡方法を変えるまでの結果が得られませんでした。

従って、**今後もご連絡の方法は郵送を基本とさせていただきます。**ただし、現在もホームページへの登載が一番早い情報伝達手段ですので、会としての動きの概要は、まずホームページへ載せております。引き続き、定期的にチェックをお願いいたします。

また、メーリングリストを使わなくても、ホームページの「掲示板コーナー」をお使いいただけますので、広く、会へのご意見や情報をたくさんお寄せ下さい。

(広報委員長 林 智子)

校友会より年金相談依頼者の紹介が・・

★堀口 利 副会長(東京会)より

2004年9月のことです。年金相談をしたいので、社会保険労務士の先生を紹介してほしい、ということで校友会より相談の依頼がありました。そして、依頼者の住所の関係から、小生にそのお役が回ってきました。

相談者は早稲田OBで、文学部卒、64歳のK氏で、世田谷区上北沢在住。京王線笹塚駅で待ち合わせ構内の喫茶店でお会いしました。名刺には「〇〇新聞社名譽職員」と書かれていました。

相談内容は次のようなものでした。

「在職老齢年金受給中のところ、会社から解雇された。ハローワークにいくと雇用保険(失業給付)の受給を勧められ、失業給付を受け始めたが、その後年金と失業給付との併給調整があることを知らされビックリした。受給済の2ヶ月間の失業給付をすぐに返納したが、その後現在にいたるも年金は支給されずに困っている。どうやら10月からは支給されるようなことを聞いたが、調整の始まった5月以降、今までの分の年金はちゃんともらえるのだろうか?」

回答というか、相談のやりとりについては、スペースの関係から省略しますが、先生方ならどのようにご説明をされるでしょうか?

ご納得された笑顔でお別れしたことはいうまでもありません。

第1回勉強会が行われました・・

★蒲生 秀晴 副幹事長(東京会)より

2006年3月18日(土)午後2時~5時まで、西早稲田の奉仕園・スコットホールの会議室で開催されました。この勉強会は、会への参加意識を醸成し、新たな知識を得ることにより社会保険労務士の業務能力を培い、新規会員の獲得及び会員のメリットを高めるものとして位置づけています。

講師・チューターは会員から選定し、今後も会員相互の勉学意識を高めていきたいと思います。

第1回目は「開業者支援講座」と題し、開業についての苦労話や、オフレコ的な裏話を、パネルディカッション形式で講師に語っていただく、という企画でした。

参加者は比較的最近開業した会員あるいは近々開業を考えている会員が集まりました。

講師は、藤原久嗣会長、渡邊和洋氏、林 智子氏の3名です。

まず藤原会長の話で始まり、会社員から開業にいたるまでの経緯、行政書士との兼業での失敗話が披露されました。次に渡邊氏から、お父様が社会保険労務士でありながら自分がバイオニアとして努力してきた様々な事例の発表がありました。最後に林氏は、開業4年目ということで、一番ホットな経験談が話されました。

特徴的だったのは、3氏とも、重要なのは社会保険労務士としての1号業務、特に書類作成がすべてのベースとなる、これを決しておろそかにせず経験を積むこと、そして人脈を大きく広げる努力をすること、という共通のアドバイスでした。

勉強会後、場所をなつかしい「金城庵」に移して懇親会があり、稻士会の会合を終えた村上副会長、大南幹事長が加わって3次会まで盛り上がりました。

次回はこの秋を予定しています。次回も多数の参加を御願いいたします。

※17年度研修委員・・・蒲生 秀晴(東京会)、見方 雅教(東京会)、和田 泰明(東京会)、二宮 孝(東京会) 以上4名

●出席者(敬称略・順不同)

巻島 剛、北 隆一、石田 一彦、中良 文彦、小澤 博太郎、御代田 和典、鈴木 正紀、上阪 信道、和田 泰明、二宮 孝、澤井 賢治、見方 雅教、花山 訓子、砂田 和郎、登丸 純好、石田 新一、松尾 陽一、蒲生 秀晴 計18名

「2005 稲門祭 & HOME COMING DAY」10月23日(日)のご報告

2005年のホームカミングデーは、のべ24名の会員が相談要員と応援にかけつけました。写真はホームページをご覧下さい。

今回もお隣は税理士稻門会でした。午前中は両方とも相談者も少なく、話がはずみましたが、午後からは徐々に相談件数も増え、お互いに大忙しでした。

今年(10月22日(日))も参加を予定しています。相談員・お手伝いのボランティアを募集していますので、奮ってご参加下さい。

なお、ホームカミングデーの詳細は <http://www.waseda.jp/alumni/hcd/> へ。

[2005年 ホームカミングデー 相談内容]

区分	世代性別	内 容
年金	60代男	厚生年金と共に共済の両方に加入。妻も同様に両制度に加入。いつ、だれにどのような手続きが必要となるか。
年金	60代男	もうすぐ70歳になるが、年金の受給金額は69、70、71歳でどう変わるのか。
労働	30代女	芸能関連の会社でアルバイトを8年している。雇用契約書もなく、雇用保険・社会保険にもいまだに加入させてくれない。最近、今まで週4日あった仕事が一方的に週2日程度となり、収入が激減して困っている。
労働	30代女	派遣労働者の給与等の労働条件について、派遣元の会社と派遣先の会社との責任分担がよくわからない。
年金	57歳男	厚生年金、国民年金は何歳からもらえるのか。
年金	70代男	障害基礎年金と老齢基礎年金の関係について。
年金	68歳男	62歳の女性と近々結婚の予定。婚姻期間が短くても遺族年金は支給されるのか。
年金	40代男	妻46歳。不動産収入があり、収入の多寡により自分の扶養になったりならなかったりを繰り返している。国民年金基金に入っているが、基金は途中でやめられるのか?
年金	60代男	妻死亡。年金を受給しているが、再婚した場合年金はどうなるか?内縁の場合は?
その他	57歳女	3号被保険者期間含めて30年。年金はいつからいくら支給されるのか?
年金	59歳男	複数の会社のオーナーをしている。在職老齢年金の制度について、説明してほしい。
年金	59歳男	在職老齢年金の制度について。
年金	59歳男	在職老齢年金の制度について。60歳の手続きについても教えてほしい。
年金	58歳女	在職老齢年金の制度について。
年金	30代男	日米通算年金協定について。
労働		海外派遣の場合の労災の特別加入制度について。
恩給	70代女	公務扶助料を遺族としてもらっていた母が死去。未支給の恩給の受領方法と相続関係の相談。
年金	60代男	国民年金の繰り下げをしている。厚生年金はもらっているが、どのような仕組みになっているのか説明してほしい。
年金	60代男	昔、厚生年金に入っていた。いつからいくらぐらいもらえるのか。黙っていて時が過ぎればたくさんもらえると聞いたが、どういう意味か。

※全部でのべ19件の相談がありました。

総会・懇親会のご案内

「第6回総会・懇親会」を、今年も下記のとおり開催しますので、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

【日 時】 平成18年 7月 8日(土) 午後4時～午後7時 副総長がご出席予定です。

【会 場】 リーガロイヤルホテル東京(大隈庭園となり)

【会 費】 6,000円

【連絡先】 下記、「社会保険労務士稻門会事務局」まで

※詳細は追って皆様にご通知いたします。

◆◆◆◆ 社会保険労務士稻門会への入会方法 ◆◆◆◆

社会保険労務士稻門会事務局にまでご一報ください。

事務局から入会申込書をお送りいたします。入会申込書をご提出いただいた後、改めて、年会費(5,000円)振込用紙、会則、会員名簿をお送りいたします。

連絡先：下記、「事務局」まで

URL: <http://www.sr-waseda.com/>

早稲田の卒業生社労士を ご存知ありませんか？

仲間を探しています。社会保険労務士のネットワークを広げていきたいと思います。是非ご協力下さい。

【発 行】社会保険労務士稻門会

《事務局所在地》

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-10-4

共同ビル新銀座5階

ヒューマンテック経営研究所内

TEL 03-3543-6326

FAX 03-3543-6169

関東甲信越地域協議会の労務管理研修会が2006年3月7日東京で行われた。私も何回目かの参加であるがいつも感心させられるのは首都圏の自主研究グループの活動が活発に行われていることである。長野会でも自主研究グループの話は前々から上がっていたが成果が出なかった。しかし今年度やっと県下で6グループが新たに立ち上がった。稻門会の皆さん、何か参考になるようなアドバイスなどありましたら是非ご教示ください。

広報委員 北村 修一

何とか今回も無事に会報発行にこぎつけました。広報委員の皆様、この1年間、たいへんお疲れ様でした。役員・幹事の方々、ご協力ありがとうございました。しかし、何より、会員皆様のお力で会の運営が成り立っているものと思います。今後とも熱いご支援をお願いいたします。そして、総会へのご出席をお待ちいたしております。次年度の広報委員会の方々、楽しい会報をお願いいたします。

広報委員長 林 智子

■17年度広報委員・・・林 智子(東京会)、北村 修一(長野会)、小笠原 浩之(秋田会)、関口 光英・ホームページ担当(埼玉会)、白岩 洋一・写真担当(東京会)、花山 訓子(東京会) 以上6名

編集後記